

2) 討議の主内容

- (1) 水温分布図等の意味は水温の絶対値の分布を示すのが目的ではなく、各水系の指標として水温を用いているのであつて、年により時期によりその絶対値は当然変つてくる。
- (2) 上述の目的のため Western Subarctic Gyre 又は Bering Sea と Alaskan Stream との境は中冷層水温分布図を用い、Subarctic Current との境界は中温層水温分布図を用い共に等温線の密な部分より高温な海域を Alaskan Stream の流域としている。
- (3) 水温のみを用いて解析を行なつてゐるのは母船等でも簡単に観測し、解析し得ることを考慮しているからであり、塩分の垂直分布図 (Fig. 3, 4, 5) ではより明確に示される。
- (4) 各母船の資料は海況解析に有効であるのでより正確な測器による資料の提供を希望する。又先行独航船等も BT 等で 200 m 深位迄の観測を行なつて資料を提供される事が望ましい。

5. 1964年度のシロサケの漁況について

大 和 寿 男 (報国水産)

先般 '65年度の魚種別来遊予想量について北水研の方々より発表があり、併せて '64年度の漁況についても海況の解析も加えて詳細に検討され、なお、各分野に於いても、論議し尽されて居るようと思われるので、ここではシロサケ漁況の概要を述べるとともに、操業中に見られた疑問点を挙げ、この説明を願いたい。

'64年度の漁況については、周知の通り、各魚種とも全漁期を通じ、全般的に低調であり一部の漁場に見られた好模様以外は特記するものは見られず、シロサケにおいてはこの傾向が特に顕著であつたように思われる。

5月下旬の船団操業開始海域は、 49°N 、 $167^{\circ}\sim 8^{\circ}\text{E}$ を中心とする海域で、水温は例年より $1\sim 2^{\circ}\text{C}$ 低目であり、アツ島周辺およびその南方水域で一部漁が見られた以外は全般的に不漁であつた。

6月に入り、前旬の漁場は少々北に移り、 50°N 線上にあつたようであり、一方、 $49\sim 48^{\circ}\text{N}$ 、 165°E 以西の海域に好漁場が形成されたが、接岸群の特徴でもあり、足早く、旬日にして魚群拡散し、各船団は広く分散して操業を行なつた。かくする内にアツ島北側に占位していた船団の動きに刺激され、6月下旬より7月上旬初め迄に全船団が 57°N 線以北に移動し、操業を行なつた。

7月に入つてからは $58^{\circ}\sim 60^{\circ}\text{N}$ 、 $178^{\circ}\text{W}\sim 176^{\circ}\text{W}$ を中心とするバンク沿いに中型主体の好漁場が形成され、多数船団が操業を行ない、各船団が銀鮭漁場へ移動する迄の間、約10日間好漁が見られ、また、西方のカラギン沖調整海区にも漁が見られたが、東方のバンク沿いの漁場との間には、殆んど見られなかつたようである。下旬に至り、 60°N 以北の海域シロザケが見られるようになり、また、アリューシャン列島南方海域に於ても中旬後半小型群の分布が見られるようになった。

8月には、ベーリング北部海域にも引続き分布していたが、魚体小型化し、南のギンザケ漁場にも前旬に引続き小型群の分布が広く認められる内に8月10日を迎え、'64年間の漁期を終了した次第である。

この間にあつて、当船団は6月末より前記のバンク沿いの海域にて操業後ギンザケ漁場へ南下し、その後再び北方漁場へ移動したが、この海域における魚群の動きに就いては前回の席上で述べたことであるが、'64年度の動きも'63年度のそれと略同様であり、'61年及び'56年度に経験したのとは異なり、総体的には、西～北西方向に動いていたようであり、今迄の経験では、この近辺では明らかに東～北東方向に動いていたのが多く、8月に入つてからは、魚群の薄き事と許可区域の北限に遮ぎられた事、および魚の羅り方向も一定して居なかつた事等よりして、最終的の移動方向は掴み得なかつたが、幸い、昨年8月に地大オシヨロ丸がアナゾイル沖にて魚体良好なる成魚のシロザケ群を捕捉したと聞いているので、発表を許される範囲内の漁況資料を伺いたく、また従来、この時期におけるこの附近の大部分のものは南西下して、北海道方面へ向かう群が多いと聞いているが、この関連性と、またこの附近の魚の中、どの程度のものが、どの時期にアナゾイル方面へ向うものか、御教示を願いたい。

6. ギンザケについて

温泉川 洋 彦 (函館公海漁業)

ギンザケがサケマスの中で占める比重は余り大きくはなかつたが、ここ2～3年来より急速にギンに対する依存度が高まつてきている。しかし、元来があまり利用されてなく、従つて、調査も行届いていないので、ギンのことはよくわからないというのが母船会社各社の実情ではなからうか。漁場に古くから来ている人は、「ギンザケは足が速い」ということをよくいう。これなどもギン魚群の捕えにくいことを象徴したような言葉ではなからうか。

ギンサケの漁場が本格的に形成されるのは、母船水域では7月中旬以降で水温 7°C 以上、北緯 50° 以南、東経 $166^{\circ}\sim 175^{\circ}$ の範囲に例年主漁場が形成されており、古くから漁場に来て